

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 5

2019 No.776

## 3 はじめの言葉

### 4 情報社会を考える その 104

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### 人材不足の原点

情報システム部門の人材不足を指摘される一方に、限りなく外部業者に丸投げアウトソーシングしてきた経緯がある。周知の通りである。自社内に、自社が必要とするシステム要員／人材が不足している。然るに、直面しているシステム開発案件／ニーズは蓄積している。どうしようもないということで、すべての案件の丸投げアウトソーシングに走るという構図だ。企業内情報システム部門は、そうした案件の社内的とりまとめ部門、そして案件の外部業者への発注部門としての機能をギリギリ果たしてきている。果たしてこれで情報システム部門としての職責を完遂できていると言えるのかというと、はなはだ難しい判断となる。社会全体としても、産業界全体が、団塊の世代の労働戦線からの離脱以来、人口統計上の少子化傾向を反映して、現実問題として、絶対的労働人口不足に悩まされている。個別、情報システム部門での人的資源不足問題ではない。

### 6 デジタルガバメント DG16

デジタル政府の展開 その 15

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018年1月16日に日本政府もデジタルガバメント実行計画をeガバメント閣僚会議で決定した。この計画は、28年1月16日から2023年3月31日までの計画である。2018年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府はICTを使って政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

### 15 連載 アーキテクチャ論 (97)

EPC 産業のデジタル変革

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

EPC (Engineering、Procurement、and Construction) 産業のデジタル変革 (DX、Digital Transformation) に EA を適用した事例を Bhaide らが紹介している。本稿では、Bhaide らの文献[1]から EA に基づいて、EPC 産業の DX を推進する事例について説明する。

## 2 2 連載 情報システム考

### 企業情報システムの変遷と行方 第 20 回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

## 2 8 IT 新時代とパラダイム・シフト

### 第 114 回 被災した世界遺産の再建と

#### デジタル複製の現状

根本忠明

この4月にパリのノートルダム寺院が火災で、世界中が大きな衝撃を受けた。世界遺産の被災は調べてみると各国で起こっている。世界遺産や歴史的遺産の被災や損傷は、地震や台風などの自然災害によるものが大きい。最近注目されているのが、現存する建造物や工芸品の精密なデジタル測定やデジタル複製を行い、復元する試みである。本稿では、世界遺産や歴史的遺産の被害状況とデジタル複製の現状について報告したい。

## 3 1 続インテリジェンスへのいざない 111

### リスク管理のために

#### 必要な情報／不必要な情報

今井 武

#### 検査入院

定期検査の結果、医師から思わぬ診断が下され、結果として、思いがけなく一泊の検査入院をする羽目になった。この数年3ヶ月おきに血圧、血糖値数値を確認の血液検査をする一方、その他にも、いろいろな検査をしてきたのだが、担当医師から異常を告げられたことはなかった。それなのに冒頭のような羽目に。最終結果はまだ知らされていないが、正直なところ、若干の不安を感じざるを得ない。何と言われようとも「日常生活に支障はないし、自覚症状もないのですが」と担当医に問うと「突然死でもしていたら、医師としての私の立場がなかった。とにかく（こうして生存していることに）私に感謝すべきです」と答えられる始末。改めて、一泊検査の理由となった該当病名を調べてみると、欧米ではある年齢以上では、検査すらする必要がないものだということが分かった。

## 3 3 連載 「まるで漫画」シリーズ

すぎやまちヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

## CR選書

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの関係	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正確性の問題点とデータウェアハウス	付 録
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code駆動によるOLAPプログラムの評価	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析集理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の影響	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 301頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動ピクセス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第八章 人間であること(人間行動ピクセス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシナリ研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM KO FZの拡張と前本記
第二章 aism情報セキュリティ研究会の設立	第十二章 メールが漏れかGTL
第三章 認識される電子署名方式の基本論	第十三章 自己ネットワーク利用のための情報オーナーの認識
第四章 署名を掛け付けたCodeRedフレーム	第十四章 最近のインターネット新情報セキュリティ対策
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 日万バリエーションの高基と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WORM(バーチャル)フレームワーク	第十七章 ケーススタディ情報セキュリティ教育I
第八章 aismの2007年度の事業活動	第十八章 情報セキュリティ教育II
第九章 情報セキュリティ研究会の意見と提議	第十九章 情報セキュリティ教育III
第十章 インターネット環境の発展と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 企業戦略のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 212頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分類方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方規式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の最適化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)  
A5版 280頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの発展条件	■ 変革企業と企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも成るも広報が窓口
■ 経営層の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編I」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	＜付＞記事とどう付き合う十六の疑問(ほとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国産グローバルサーバー  
—IBM社会に頼らぬ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 変遷	第十一章 日本製電子法の謎い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 某チーム前後の秘蔵
第三章 国産システムへの働き	第十三章 富士通のつら
第四章 WDCに向けて	第十四章 某チーム前後の秘蔵と富士通
第五章 F&C, 9000競争	第十五章 国産システムとハードウェア
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本製システムと本業関係の歴史
第八章 某チーム立ち上げの誤れ	第十八章 国産システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 国産システムの 前編、直後の苦しみ
第十章 某チーム、静となる三人組	第二十章 国産システムの 後編、直後の苦しみ

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)